

2019年度 音楽科実践・研究計画

部 員	○大山光子, 小林葉子
-----	-------------

研究テーマ

音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び

1 研究テーマについて

子どもたちの周りには様々な音や音楽があふれている。聞こえてきた音のまねをして口ずさんだり、リズムに合わせて手拍子をしたり、楽器を演奏したりするなど、音や音楽とのふれあい方・楽しみ方は多様で自由である。音楽科では、子どもたちが将来にわたって生活や社会の中の音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。「もっと歌ってみたい。」「もう少し聴いてみたい。」「もっと上手にリコーダーを演奏したい。」子どもたちのこんな声を大切にし、一人でも仲間とも一緒に歌ったり演奏したり、鑑賞したりすることを楽しみ、音楽経験から得られる感動を共有する姿を期待し、2年次は「音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び」の研究テーマで授業づくりを行っていききたい。

音楽科における「自律した学習者」とは、自分の思いと知識や技能の習得を往還させながら音楽活動を行う中で、聴き合うことを大切にして、音を通して表現できる子どもと捉える。また、「学びをつなぐ」を、それまでの音楽経験をもとに、音楽を形づくっている要素とその働きに着目して楽曲を表現したり、鑑賞したり、音楽づくりをしたりできることと捉える。

1年次の実践では、歌唱・器楽の表現活動において、題材の導入で鑑賞活動を取り入れたことで、音楽を形づくっている要素について共通理解を図ることができた。この題材構成により、音色にこだわってリコーダーを演奏したり、呼びかけとこたえに気を付けて歌ったり鑑賞したりする子どもの姿や、子どもが見通しをもち意欲を持続しながら活動する姿が見られた。鑑賞と表現を融合させた学習活動が、学習意欲の持続につながり、繰り返し「見方・考え方」を働かせることで技能が習得でき、有効であることが分かったことが成果である。その一方で、音楽的な省察の時間が大切であることを確認することができた。音楽科ならではの省察は、授業終末における言語による振り返りだけではない。音楽活動を行っている場面では、「声や音を出して試してみる」「もう一度聴いてみる」など、子どもたちが試行錯誤しながら気づき、音楽を形づくっている要素を確認する活動が繰り返され、自然に修正が行われている。これこそが音楽的な省察である。一人一人が適切な「見方・考え方」を自覚的に用いることができるためには、音楽を形づくっている要素から離れることなく、音楽表現を繰り返し行う過程で「聴く力」を高めていくことが重要である。音楽的な要素に着目し、自分の音や友達の音を聴きながら音楽活動を行う子どもの姿を期待し、研究を進めていきたい。

音楽科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- ・表現や鑑賞に必要な知識を更新し、新たな技能を習得しながら、生活の中に音楽を生かそうとする姿
- ・自分の思いをもち、表現したり鑑賞したりする中で、仲間との関わりを大切にす
る姿
- ・知性と感性の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿

2 研究の重点

(1) 互いに聴き合うことで「聴く力」を高める省察の工夫

～聴く耳を育てる～

音や声に出して確かめることが、音楽科では必須である。短い旋律づくりであっても、音を出し確かめながらつくっていくように、音楽は、音から離れては成り立たない。いい音色や正確なリズムなど音楽的な要素に視点をしぼり、繰り返し試しながら互いに聴き合う活動を取り入れ、「聴く力」を高めていきたい。聴き取り、感じ取ることのできる聴く耳を育てていくために、「演奏する役」や「聴き役」になり、互いにフィードバックし合う協働的な省察場面を意図的に設ける。

(2) 音楽的な「見方・考え方」を自覚的に用いる力を高める題材構成の工夫

～鑑賞と表現を融合させた学習活動～

1年次の研究では、鑑賞活動を通して目指す音色を明確に捉えたり、音楽の仕組みに気付いたりするなど、鑑賞を効果的に位置付けることが題材を貫く柱となることが分かった。音楽を形づくっている要素の関わり合いやそれらが生み出す働きに気付きながら鑑賞し、演奏や音楽づくりに生かしていくことができるように、「楽曲を聴く」「音楽づくりをする」「演奏する」活動を適切に組み込み、高めたい資質・能力に応じて題材構成を工夫していく。これらの実践を通して、知性と感性の融合のもと、音楽を構造的に捉える思考を培うことができるようになる。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・附属小学校公開研究協議会（6/7） 提案授業 大山：3 A 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の確認 ・授業づくり，授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究パンフレット執筆 ・第2回校内研修会（9/30） 提案授業 小林：1 B ・教科部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究の修正 ・授業づくり，授業力向上
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性の確認 ・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正